

令和4年度 地域連携事業報告書

地域教育実践研究センター



学校法人福原学園
九州女子大学・九州女子短期大学

目 次

第1章 大学における地域連携について

I. 大学が地域連携する意味	2
II. 組織と業務内容	3
1. 組織	
2. 業務内容	
3. 外部評価	
III. SDGsの推進について	4
1. SDGsとは	
2. 本学の取り組み	
IV. 令和4年度の地域連携事業実績一覧	5

第2章 令和4年度の地域連携事業

I. 芦屋町との包括的連携事業	7
1. スーパーキャラバン隊による模擬保育	
2. 地域交流サロンにおける公開講座	
3. 芦屋町祖父母学級における公開講座	
II. 水巻町との包括的連携事業	11
1. 防災教室事業	
III. 北九州市との連携事業	12
1. 放課後児童クラブの指導員を対象とした公開講座	
IV. 折尾二三会との包括的連携事業	16
1. 九女わくわくパークの企画運営	
V. 不二製油株式会社との包括的連携事業	18
1. 大豆加工食品を活用した製品開発事業	
VI. 株式会社えん・コミュニケーションズとの包括的連携事業	20
1. 鯖および明太子を活用した製品開発事業	
VII. インターンシップ推進事業	22
1. インターンシップの種類	
2. インターンシップ参加スケジュール	
3. 各インターンシップの実績	
VIII. 学生ボランティア事業	26
IX. その他の地域連携諸事業	27
1. 北九州市民カレッジにおける公開講座	
2. 「ギラヴァンツ北九州」との連携事業	
3. 宗像市との連携事業	

第3章 学外実習・介護等体験等

I. 令和4年度学外実習・介護等体験の実績	28
-----------------------	----

参考資料

I. 地域教育実践研究センターの各種委員会構成員	29
II. 地域教育実践研究センターの運営委員会等年間実績	29
III. 地域教育実践研究センター外部評価委員会報告	30
IV. 協定先一覧	31
V. 講師派遣実績一覧	32
VI. 行政の審議会等委員委嘱実績一覧	33

第1章 大学における地域連携について

I. 大学が地域連携する意味

本学は、「地域に根差した実践教育を展開する大学」として、これまで取り組んできた教育・研究を地域社会の発展に資するため、平成27年6月1日に地域教育実践研究センターを設置した。

地域教育実践研究センターでは、学部・学科、および教員個々が実施してきた地域との関わりについての実態調査や地域が抱える課題や要望等を把握のうえ、「学生の質保証の強化」、「大学の教育・研究機能の活用」および「地域社会との共生」の3本柱を軸として、地域連携事業の在り方を検討し、本学の地域貢献(型)による大学創りに取り組む。

学生の質保証の強化

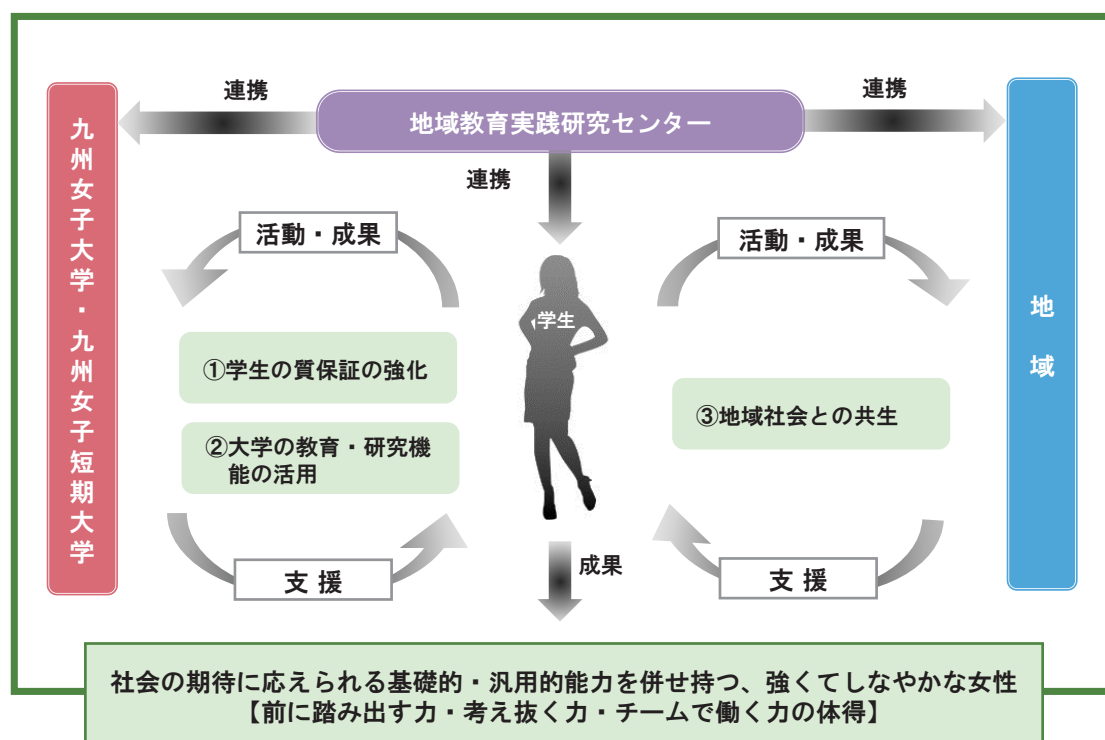
- ・地域課題(ニーズ)と大学資源(シーズ)を把握し、地域の課題を解決するため、学生ボランティアの育成を実践するとともに、学生の実学的教育を実践する。また、学生自身の研究テーマを設定して臨地研究を行うことにより、学生の研究論文に繋げていく。

大学の教育・研究機能の活用

- ・地域課題の現状調査を行い、データを分析し、これに対応する教育プログラムを作成する。また、教員による地域への出前型講座等を学生ボランティアと実践し、事業評価を行う。将来的には、「地(知)の拠点」として地域(自治体・企業等)と地域課題を解決する補助事業や共同研究の実施も視野に入れる。

地域社会との共生

- ・本学と自治体が組織的・実質的に協力し、地域課題と大学資源のマッチングにより、地域と大学が必要と考える取り組みを実践することで、地域との共生を実現させる。



Ⅱ. 組織と業務内容

1. 組織

地域教育実践研究センターの適正な管理運営を図るため、「地域教育実践研究センター運営委員会」（以下、「運営委員会」）を設置している。運営委員会は、センター所長、センター副所長、教務部長、学生部長、事務局長、大学・短大の各学部等から学長が推薦する教育職員、その他学長が必要と認めた職員で組織している。組織的に事業に取り組むため、事業案件を運営委員会で審議・決定し、本学の評議会に審議事項を上申している。また、事務を所管するのは、センター所長、センター副所長、事務職員が行う。

2. 業務内容

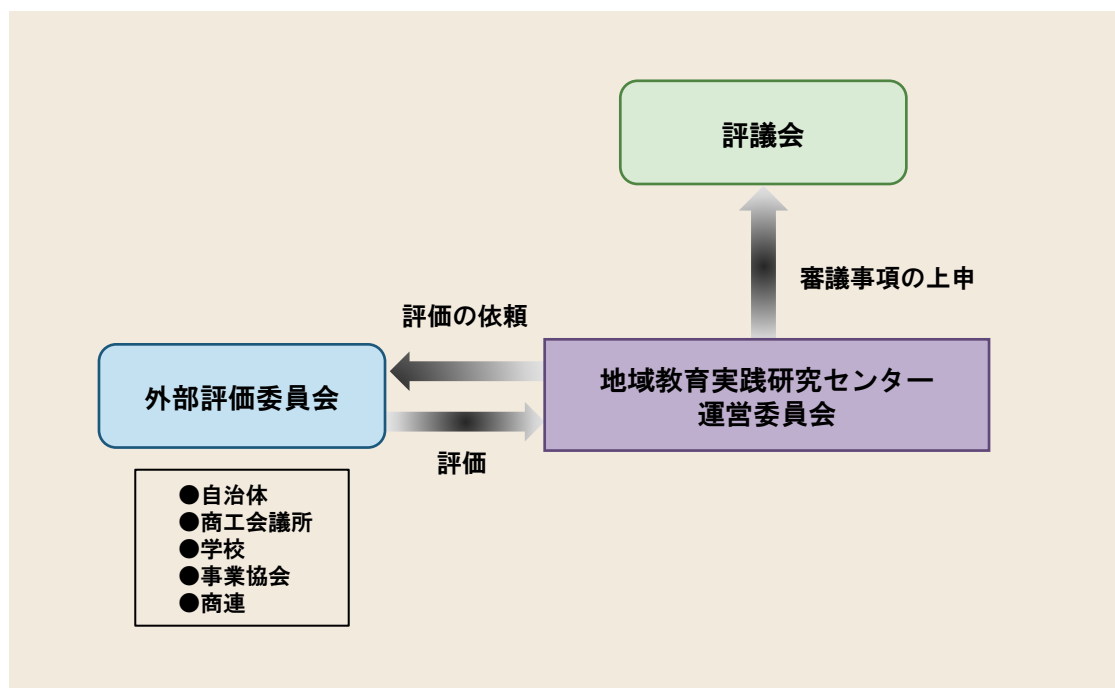
地域教育実践研究センターは、以下の業務を実践・研究するため、学科、個人単位で実施していた地域連携事業の一元化を図るとともに、外部からの依頼に関する窓口としての機能も有する。また、地域連携事業については、運営委員会の検討を踏まえ、各学部等から選出された運営委員により、学科会議等において検討内容の共有に努めることとしている。

地域教育実践研究センターの業務内容

- ①地域教育実践研究活動に関する学内情報の一元管理に関すること
- ②地域教育実践研究活動の学内外への広報ならびに情報の提供に関すること
- ③地域教育実践研究活動に関する対外的な窓口機能に関すること
- ④地域教育実践研究活動の教育実践プログラムおよび研究プロジェクトに関すること
- ⑤地域教育実践研究活動に関する連絡調整に関すること
- ⑥学校インターンシップおよび学校ボランティアに関すること
- ⑦学外実習および介護等体験に関すること
- ⑧教員免許状更新講習に関すること
- ⑨その他地域教育実践研究活動に関すること

3. 外部評価

地域教育実践研究センターの取り組みについて、学外有識者による評価を行うことで自己点検・評価活動に反映させ、客観性・公平性を担保するため、外部評価機関として「地域教育実践研究センター外部評価委員会」（以下、「外部評価委員会」）を設置している（P29参照）。



第1章 大学における地域連携について

Ⅲ. SDGsの推進について

1. SDGsとは

SDGsとは、2015年の国連サミットで採択された、貧困や不平等、気候変動等の様々な社会課題や環境問題を根本的に解決し、より良い生活を送ることができる世界を目指す、世界共通の持続可能な開発目標である。SDGsは、17のゴールと169のターゲットから構成され、2016年から2030年の間、世界中の国々が目標達成に向け取り組んでいる。

本学が位置する北九州市は、内閣府から、「SDGs未来都市」(全国29自治体)、および「自治体SDGsモデル事業」(全国10事業)等を選定されていることから、SDGsを踏まえた取り組みを積極的に推進している。



2. 本学の取り組み

本学は、地域に根差した実践教育を展開する大学として、大学の持つ教育・研究を地域へ還元し、一人でも多くの人々の生活に反映することでSDGsへ繋げる。自治体および企業等との連携事業を通じて、教育、地域課題の解決、栄養・健康に関するSDGsに取り組み、魅力あるまちづくりへ貢献する。



IV. 令和4年度の地域連携事業実績一覧

	事業	概要	SDGs
I	芦屋町との包括的連携事業	1. スーパーキャラバン隊による模擬保育 芦屋町の保育所および幼稚園において、子ども健康学科の学生が実践型教育、および保育支援として模擬保育を実施している。令和4年度に関しては、新型コロナウイルス感染症の影響により、派遣を中止し、教育教材作成を行った。	 
		2. 地域交流サロンにおける公開講座 芦屋町の地域交流の促進を図り、高齢者に学び直しの機会を提供するため、地域交流サロンにおいて本学教員による公開講座を実施した。 ■担当教員：巴美樹、白石美恵、樫澤葉子	
		3. 芦屋町祖父母学級における公開講座 芦屋町の高齢者が充実したセカンドライフを歩むきっかけづくり等のため、昨年度に引き続き、各小学校区の祖父母学級生を対象に本学教員(書道担当)による公開講座を実施した。 ■担当教員：古木誠彦 ①山鹿公民館 ②芦屋東公民館 ③芦屋町中央公民館	
II	水巻町との包括的連携事業	1. 防災教室事業 町民のさらなる防災意識の向上を図るため、人間生活学科のカリキュラムにおいて水巻町役場が地区や小中学校に対して行っている防災教室に同行し、防災教室の内容および様子等の視察を行った。	   
III	北九州市との連携事業	1. 放課後児童クラブの指導員を対象とした公開講座 本学と北九州市(子ども家庭局)で放課後児童クラブの振興を図るため、昨年度に引き続き、本学教員によるクラブ指導員を対象とした公開講座(テーマ：プレイフル・ラーニングの視点から子どもを「支える」を考える-「本気で遊ぶ、本気で学ぶ」の可能性-)を実施した。 ■担当教員：谷口幹也	
IV	折尾二三会との包括的連携事業	1. 九女わくわくパークの企画運営 人間生活学科3年生の「地域生活学演習Ⅱ」および、人間発達学科人間基礎学専攻3年生の「卒業研究演習Ⅱ」において、学科を超えた合同授業を行い、地元の子どもたちを対象とした「九女わくわくパーク」を企画のうえ開催した。 ●参加者数：52名 (浅川小18名/折尾西小7名/光貞小6名/医生ヶ丘小3名/ひびきの小2名/猪熊小2名/足原小1名/伊左座小1名/海老津小1名/未就学児9名/その他6名)	
V	不二製油株式会社との包括的連携事業	1. 大豆加工食品を活用した製品開発事業 不二製油株式会社と連携し、栄養学科の学生が、地域の方の体づくりや健康促進を目的に大豆加工食品の試作品を開発した。	
VI	株式会社えん・コミュニケーションズとの包括的連携事業	1. 鯖および明太子を活用した製品開発事業 栄養学科の学生が、株式会社えん・コミュニケーションズが主力商品としている鯖や明太子を活用し、食品ロスを目的に新商品の試作品を開発した。	

第1章 大学における地域連携について

	事業	概要
VII	インターンシップ推進事業	1. 文系インターンシップ 北九州市内の学生に対して、職業意識の醸成や勉強意欲の向上、および市内企業への就職促進を図るため、市内の大学、短期大学、企業、北九州商工会議所が連携・協力し、文系学生を対象に就労体験の場を提供する事業である。 ●派遣学生数：【夏季】延べ19人／【春季】延べ14人 3. 九州インターンシップ推進協議会 通常型インターンシップ 九州全体を見据えたインターンシップの推進と次代を担う若手の人材を育成するため、九州経済産業局や地元経済界、主要大学による産学官が協力して実施する事業である。 ●派遣学生数：【夏季】1人／【春季】0人 4. 山口県インターンシップ推進協議会インターンシップ 山口県の経済・社会の活性化に貢献するため、県内の高等教育機関等、事業所、経済団体、行政機関が相互に連携・協力し、企業等へのインターンシップを通じて、高い職業意識の育成を推進する事業である。 ●派遣学生数：【夏季】0人／【春季】0人 5. 北九州市インターンシップ 職業意識の向上、人材育成、および市政に対する理解を深めるため、市と協定を締結した教育機関の学生を対象とした市役所の公務に関する職業体験事業である。 ●派遣学生数：2人
IX	学生ボランティア事業	本学は、幼児教育者や学校教員等を目指す学生に現場経験を積ませるため、グリーンティーチャー等と称して、幼稚園・保育所、小学校、特別支援学校等に数多くの学生を派遣している。また、ボランティアとして、病院施設、図書館等にも学生を派遣している。
X	その他の地域連携諸事業	1. 「北九州市民カレッジ」における公開講座 「北九州市民カレッジ」において、高等教育提携コース（本学会場）で人間科学部教員による全5回の講座を開講した。また「デジタル化の抱える課題と私たちの未来」をテーマとした全6回の大学連携リレー講座に本学教員を派遣した。 ■担当教員：吉村圭、古木誠彦、山下高之、方如偉、檜澤葉子、関洋輔 2. 「ギラヴァンツ北九州」との連携事業 本学園および「ギラヴァンツ北九州」、豊前市の取り組みとして、有害鳥獣であるイノシシやシカを使用したジビエカレーのレシピを考案した。 また、北九州市および本学園、ギラヴァンツ北九州主催の「SDGsサッカークリニック（小学生の部）」および「SDGsサッカークリニック（中学生の部）」を開催し、栄養学科教員による栄養セミナーを行い、SDGsの取り組みの一つとして普段捨てている人参や大根の皮を使用したレシピを考案し、試食会を行った。 さらに子ども健康学科専攻科の学生が「ギラヴァンツ北九州」のホームゲームで、サポーターが子ども連れでもゆっくり観戦できるための空間を提供するため、託児所を開設している。 3. 宗像市との連携事業 宗像市との連携事業において、椿油を使用したレシピの開発および地島の特産品であるわかめの新パッケージの作成を行った。

第2章 令和4年度の地域連携事業

I. 芦屋町との包括的連携事業

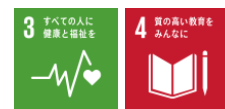
平成28年3月29日、実践教育の場で社会の期待に応えられる学生を育成するため、芦屋町と包括的地域連携に関する協定を締結した。芦屋町と協定を締結することで、双方の持つ資源を結集し、行政や地域が抱える課題の解決、および社会性や実践力を身につけた学生の育成等、双方のメリットを効果的かつ最大限に活かすとともに、連携事業を推進する。

令和4年度は、スーパーキャラバン隊による模擬保育は新型コロナウイルス感染症の影響により開催を中止し、教育教材ビデオ作成を行ったが、地域交流サロンにおける公開講座および芦屋町祖父母学級における公開講座においては通常通り実施した。

1. スーパーキャラバン隊による模擬保育

(1) 概要・関連SDGs

キャラバン隊は、九州女子短期大学子ども健康学科の実践型教育として、幼稚園・保育所・施設・学校等において、模擬保育・模擬授業を展開する学生主体の活動である。この活動を通じて、学生の「創造性」「意欲」「研究心」「人間関係力」「問題解決能力」等、総合的な「人間力」の育成を目的としている。キャラバン隊には、原則子ども健康学科の1年生全員が所属し、専門性と人間性を身につけるために必要なことは何かを考察している。また、希望する学生については、「スーパーキャラバン隊」として他の学生の模範となり、中心的に活動に取り組んでいる。令和4年度は新型コロナウイルス感染症の影響により活動を中止し、園に配布する教育教材ビデオの作成を行った。教育教材ビデオの作成は令和5年度も引き続き作成を行うこととなった。



(2) 過去の活動の様子



第2章 令和4年度の地域連携事業

3. 地域交流サロンにおける公開講座

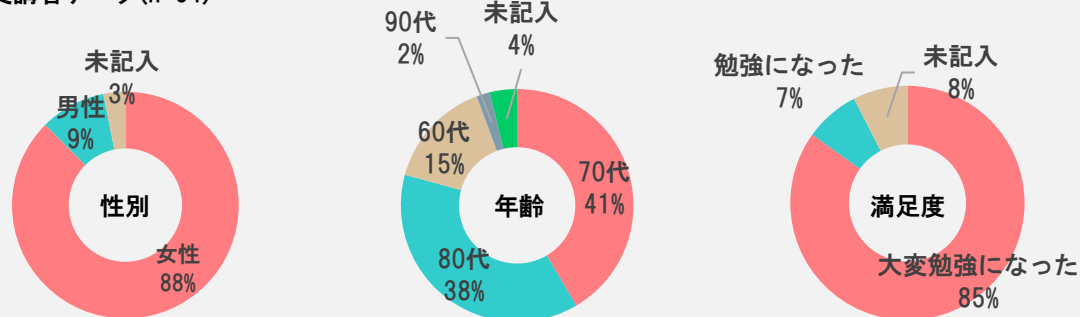
(1) 概要・関連SDGs

地域交流サロンは、芦屋町の高齢者が身近な場所に集い、体操や趣味、食事、おしゃべり等を通じて、生きがい作りや介護予防のため運営している。そのサロンの高齢者を対象に学び直しの機会を提供するため、本学教員による公開講座を実施した。



(2) 実施内容

■受講者データ(n=64)



タイトル	江戸の怪談
担当教員	九州女子大学 非常勤講師 榎澤葉子
実施日時	令和4年12月21日(水)
実施場所	浜崎区公民館
受講者数	13人



受講者の声

- ・ 怪談を文化的視点で学ぶことが出来て楽しかったです。
- ・ 新しい世界、考え方の新しい切り口を見せていただきました。
- ・ 江戸時代の人の怪談に対する考え方を学べて良かったです。
- ・ 先生の優しい口調でわかりやすく解説していただき、勉強になりました。

担当教員の感想

昨年度、コロナ禍の影響のため実施できなかったが、今年度はようやく実施することができた。出席された受講者からは、講座後、質問等が活発に出され、盛況であった。感染に最大限注意しながらの、地域の高齢者に対する学び直しの機会は、今後ともますます重要になってくることが実感された。

タイトル	若く老いるための栄養学
担当教員	九州女子大学 家政学部栄養学科 教授 巴美樹
実施日	①令和5年1月17日(火) ②令和5年2月11日(土)
実施場所	①緑ヶ丘公民館 ②幸町区公民館
受講者数	①16人 ②20人



受講者の声

- ・食品別に含まれる栄養素について説明がありわかりやすかったです。
- ・今の自分の食事の見直しや改善に役立つ話でした。またぜひ講義していただきたいです。
- ・食べる事の大切さを知りました。
- ・先生の話がとても参考になりました。運動と食事で元気に過ごしたいです。
- ・食事がいかに大切か納得しました。運動と共に気を使いながら生活したいです。
- ・楽しく栄養のことが学べました。

担当教員の感想

平均年齢75歳であったが、非常に熱心で質問も多く充実感があつた。芦屋町の行政との「サロン」の連携が上手くいっており急速な高齢化が進む中、健康寿命を延ばす目的に沿った素晴らしい取り組みであると考えます。

タイトル	毎日の「食」の大切さと管理栄養士の仕事の魅力
担当教員	九州女子大学 家政学部栄養学科 教授 白石美恵
実施日時	令和5年1月22日(日)
実施場所	花美坂区公民館
受講者数	17人



受講者の声

- ・食事を簡単に済ませていたのでこれからはもっといろいろなものを食べようと思います。
- ・話が楽しく、わかりやすく、学生さんたちも楽しく勉強されていると思います。
- ・テンポが良く身近なものに感じる内容でした。
- ・食生活におけるタンパク質、穀類、野菜の摂取量と分量がわかってよかったです。

担当教員の感想

簡単にバランスの良い食事をするためのヒントや、いつまでも口から美味しく栄養をとるための嚥下や咀嚼機能維持のための運動を紹介した。さらに管理栄養士養成校である九州女子大学の栄養学科を紹介しながら、社会での管理栄養士の仕事やこれから病院や施設で出会うであろう管理栄養士の存在を説明し、遠慮なく相談して欲しい旨を伝えた。活気ある高齢者男女17名と共に盛会となった。

第2章 令和4年度の地域連携事業

3. 芦屋町祖父母学級における公開講座

(1) 概要・関連SDGs

芦屋町祖父母学級は、芦屋小学校・芦屋東小学校・山鹿小学校の各校区で活動する大人向けの公民館講座の一つであり、豊富な知識と経験を持つ者同士が、楽しく学び、より深い社会性を身につけることを目的としている。その祖父母学級の高齢者を対象に学び直しの機会を提供するため、昨年度に引き続き、3ヶ所の公民館において本学教員による公開講座を実施した。



(2) 実施内容

場所	日程	時間	受講者数
山鹿公民館	令和5年2月28日（火）	10：00～12：00	5人
芦屋東公民館	令和5年3月1日（水）	10：00～12：00	7人
芦屋町中央公民館	令和5年3月7日（火）	10：00～12：00	10人

タイトル	おもしろい漢字の話&書道チャレンジ特別編!!		
担当教員	九州女子大学 人間科学部人間発達学科(人間基礎学専攻) 准教授 古木誠彦		
講座の展開			
主な講座内容		留意点	
①講座内で取り上げる青銅器「小臣觶尊」「戌嗣子鼎」とその銘文内容について解説。		- 青銅器の形や銘文構成など、あまり身近ではない文物について、より理解して貰えるよう解説を行った。 - 漢字の成り立ちを知ることが目的ではあるが、日常的に漢字に興味を持ってもらうことが、最大の目的であることを受講者に認識させながら、講義を行った。 - また今回も、漢字ができた初義と現在の我々が使用している意味の違い・変化にも言及し、漢字が時代とともに変化しながらも生き続けている、という感覚を養うことに重点も置いて話を進めた。 「小臣觶尊」「戌嗣子鼎」銘文中の漢字を実際に筆で臨書。解説を加えながら、古代文字の書き方や、書芸術としての表現方法について、受講生の前で実作にて示した。	
②「小臣觶尊」「戌嗣子鼎」について、その銘文中の文字について、漢字の成り立ちを解説。			
③各自、「小臣觶尊」「戌嗣子鼎」銘文中の漢字を、実際に筆を使って練習を行った。			
④各自、練習した文字の添削と解説。			

担当教員の感想

年々、受講生の皆さんの熱心度が上がり、この講座を始めたばかりの頃と比べると、皆さんの漢字知識レベル・漢字への興味の度合いが急上昇していることに、何よりも喜びを感じます。

また、昨年度より試みている「古代文字を実際に筆で書く」ことも、皆さんが漢字の事を改めて確認するだけでなく、筆・墨・紙を使い、書くことを楽しんでおられる様子を見ると、大変嬉しく思います。「書くこと」も漢字を知る一部である、と理解して頂けたら幸いです。

Ⅱ. 水巻町との包括的連携事業

平成31年4月17日、実践教育の場で社会の期待に応えられる学生を育成するため、水巻町と包括的地域連携に関する協定を締結した。水巻町と協定を締結することで、双方の持つ資源を結集し、行政や地域が抱える課題の解決、および社会性や実践力を身につけた学生の育成等、双方のメリットを効果的かつ最大限に活かすとともに、連携事業を推進する。水巻町は、町民の防災意識の向上を課題としているため、防災に係る事業を本学と今まで連携してきた。

令和4年度は、町民のさらなる防災意識の向上を図るため、水巻町役場が小中学校および自治会等で行っている防災教室に同行した。

1. 防災教室事業

(1) 概要・関連SDGs

水巻町は町民のさらなる防災意識の向上を図るため、地区や小中学校等を対象とした防災教室を行っている。令和4年度は人間生活学科のカリキュラムにおいて水巻町役場が行っている防災教室に同行し、防災教室の内容および様子等の視察を行った。視察した結果について授業内でフィードバックを行い、今後学生たちが、水巻町町民に向けて行う防災教室の内容を考えた。



(2) 実施内容

①伊左座小学校での防災教室の実施

令和4年9月20日、水巻町役場職員が伊左座小学校の小学4年生80名を対象に防災教室「防災について」を実施した。講義内容は、令和4年9月の台風11号時の町内の被害および様子を紹介するとともに、近年の水巻町の災害に対する取り組みについて紹介した。また災害が起こった場合の避難の方法や避難する際の持ち物、地域住民が自主的に協力して、防災活動を行う団体である自主防災組織および防災士についても紹介した。

教員から当日の講義内容や防災教室の様子を聞いた人間生活学科の学生たちは、これまで自分たちが実際に行った台風対策について意見交換を行い、防災の理解を深めた。



②梅ノ木団地東区での防災教室の実施

令和4年11月18日、水巻町役場職員が梅ノ木団地東区に在住している住民30名を対象に防災教室「梅ノ木団地東区防災教室」を実施した。講座内容は、令和4年9月の台風11号時の町内の被害および様子を紹介するとともに、近年の水巻町の災害に対する取り組みについて紹介した。またハザードマップを用いて災害が起こった場合の避難について紹介した。実際に消火器を使用した訓練を行った。



(3) 成果発表

令和5年2月1日、本事業について学生が発表した。今年度実施した防災教室に関しては、次年度の活動へ繋げていくこととした。

水巻町との連携事業を通じて、学生の研究へ還元することができ、地域教育実践研究センターの基本方針である「学生の質保証の強化」へ繋げることができた。

第2章 令和4年度の地域連携事業

Ⅲ. 北九州市との連携事業

1. 放課後児童クラブの指導員を対象とした公開講座

(1) 概要・関連SDGs

平成25年9月1日に北九州市と本学で「北九州市放課後児童クラブの振興に関する連携」について協定を締結した。平成27年度連携事業開始にあたっては、放課後児童クラブの要望を把握するため、児童クラブの指導員を対象にアンケート調査を行った。このアンケート調査の結果から、4領域(①生活、②遊び、③活動・行事、④衛生等)について公開講座の要望があった。

平成27年度から令和2年度は、これらの要望に基づいて以下のとおり公開講座を実施した。

令和3年度については、大規模型公開講座を1講座実施予定であったが新型コロナウイルス感染症の影響により開催を中止した。令和4年度については、前年度できなかった講座を開講することができた。



(2) 大規模型公開講座の実績

講座名	受講者数	担当教員	実施年度
プレイフル・ラーニングの視点から子どもを「支える」を考える「本気で遊ぶ、本気で学ぶ」の可能性-	市内指導員194名	人間発達学科 谷口 幹也	R4年度
プレイフル・ラーニングの視点から子どもを「支える」を考える「本気で遊ぶ、本気で学ぶ」の可能性-	開催中止	人間発達学科 谷口 幹也	R3年度
子どもの姿のとらえとかかわり方 ～コロナ禍での対応も含めて～	市内指導員84人	人間発達学科 蒲原 路明	R2年度
応急手当の基本と食物アレルギー対応	市内指導員88人	人間発達学科 春高 裕美	R1年度
明日からの支援に活かそう健康観察と応急処置	市内指導員92人	人間発達学科 春高 裕美	H30年度

(3) 通常型公開講座の実績

【領域 ①：生活】

内容	要望	講座名・実施クラブ	担当教員	実施年度
生活指導	- 高学年の発達に応じた独自の生活指導の研修があれば良い。 - 児童と指導員との対応の仕方。例えば、問題児との関わり方等、具体策について勉強してみたいと思う。	子どもの発達特性を活かした生活集団づくり 萩原学童保育クラブ 受講者数:指導員12人	人間発達学科 神代 明 藤川 一俊	H27年度
発達障害	- 発達障害やボーダーラインの子どもたちに関する研修があれば参加したい。 - 発達障害を持った児童に対する指導方法、落ちつきのない児童(グレーゾーン)の対応、声かけ等	発達障害の子どもの特性と基本的理解 けやき児童クラブ 受講者数:指導員13人	人間発達学科 石黒 栄亀	H28年度
保護者クレーム対応	児童同士のトラブルにおける保護者からのクレーム対応	※北九州市が別途研修実施済		

【領域 ②：遊び】

内容	要望	講座名・実施クラブ	担当教員	実施年度
遊び(レク)	- 子どもの興味をひく遊びや低学年用、高学年用等、年齢に合った遊び - 遊びのスペースが狭いため、限られた環境に適した遊びの指導、小学校高学年児童向けのもの	高学年における集団遊び 医学生児童クラブ 受講者数:指導員7人/児童7人	人間発達学科 藤川 一俊	H27年度

【領域③：活動・行事】

内容	要望	講座名・実施クラブ	担当教員	実施年度
ダンス・手遊び	- 夏休み等にいくつかのクラスに分けて、ダンス、制作、その他希望する活動が一堂にできればとてもありがたい。 - ダンス、演奏等の活動はできていないと感じているため、楽しんで体を動かす活動を教えてあげて欲しい。	体を動かすことを楽しもう！ ～リズムにのって楽しく～ 折尾児童館内放課後児童クラブ 受講者数：指導員11人/児童22人	人間発達学科 青山 優子	H27年度
		リズム表現を通した子どもの心と体への働きかけ 曽根東校区放課後児童クラブ 受講者数：指導員15人	子ども健康学科 津山 美紀	H28年度
		制作体験(工作・美術)～実用的なものから遊べる制作物まで～ 西小倉なかよし学童クラブ 受講者数：指導員14人	子ども健康学科 富永 剛	H28年度
		制作体験(工作・美術)～実用的なものから遊べる制作物まで～ 西小倉なかよし学童クラブ 受講者数：指導員14人	子ども健康学科 富永 剛	H28年度
活動	- 職員の啓もう - もっと1～6年生が気軽にできたり、夏に取り組める例を知りたい。	いろんな学年の子どもたちを楽しく遊ばせよう 星の子・木屋瀬放課後児童クラブ 受講者数：指導員23人	人間発達学科 萬徳 紀之	H29年度
		いろんな学年の子どもたちを楽しく遊ばせよう 星の子・木屋瀬放課後児童クラブ 受講者数：指導員23人	人間発達学科 萬徳 紀之	H29年度

【領域④：衛生等】

内容	要望	講座名・実施クラブ	担当教員	実施年度
応急処置	- ハチにさされた、大量の鼻血、けいれん等の応急処置の仕方。 - インフルエンザ等で隔離が困難であるため、このようなケースの対応について。	やってみよう！ 緊急対応と応急処置 鴨生田放課後児童クラブ 受講者数：指導員9人	人間発達学科 春高 裕美	H27年度
		応急処置～実際にやってみよう、緊急対応と応急処置～ 松ヶ江北校区放課後児童クラブ 受講者数：指導員13人	人間発達学科 春高 裕美	H28年度
		応急処置～実際にやってみよう、緊急対応と応急処置～ 松ヶ江北校区放課後児童クラブ 受講者数：指導員13人	人間発達学科 春高 裕美	H28年度
		応急処置～実際にやってみよう、緊急対応と応急処置～ 松ヶ江北校区放課後児童クラブ 受講者数：指導員13人	人間発達学科 春高 裕美	H28年度
おやつ	- 児童に多い疾病、食物アレルギーに関する対処方法等 - 簡単に時間と手間をかけずにできる手作りおやつのレシピ紹介	※北九州市が別途研修実施済		
アレルギー	- アナフィラキシーショックの対応(エピペン使用)の研修 - アレルギーの「完全除去」「製造ラインから除く」等、基礎的な知識とおやつの工夫を知りたい。	応急処置～実際にやってみよう、緊急対応と応急処置～ 松ヶ江北校区放課後児童クラブ 受講者数：指導員13人	人間発達学科 春高 裕美	H28年度
不審者対応	- 不審者が侵入した際の子どもの誘導、カラーボールを準備して投げる等 - 女性でも子どもたちを守れる護身術等。他に救急対応、不審者対応等	不審者対応と護身術 永犬丸放課後児童クラブ 受講者数：指導員8人	人間発達学科 神代 明	H29年度
		不審者対応と護身術 永犬丸放課後児童クラブ 受講者数：指導員8人	子ども健康学科 松崎 守利	H29年度

第2章 令和4年度の地域連携事業

(4) 公開講座の実施内容

タイトル	プレイフル・ラーニングの視点から子どもを「支える」を考える －「本気で遊ぶ、本気で学ぶ」の可能性－
担当教員	九州女子大学 人間科学部人間発達学科(人間発達専攻) 教授 谷口幹也
実施日時	令和4年6月3日(金) 10:00～12:00
実施場所	ウェルとばた 大ホール
受講者数	指導員194人
目的	放課後児童クラブにおいて児童自身が主体的に活動する方法を探究し、現場を改善し活性化するための方法と知恵を来場者全員で学び合う。
概要	プレイフル・ラーニング＝「本気で遊ぶ、本気で学ぶ」をテーマに講話をし、ストローを使用したワークショップを行う。「ブリコラージュ」(身近なものを組み合わせ有用なものに変える知恵)、「ティンカリング」(モノや道具をいじくりまわし創造的に思考する術)を体験を通して学ぶ。講演者と人間発達学専攻・学生4名がジェネレーターとなり、児童が主体的に行動する活動とは何かを参加者全員と探究し、グループワークを通して現場ですぐに実施し改善できる事項、児童や職務に対する思いを共有する時間を創出する。
準備	①配付資料、②PC、③スクリーン
講座の展開	
主な講座内容	留意点
講演者の自己紹介。大学におけるプレイフル・ラーニングを紹介する。	
◇ワークショップ 「ストローチャレンジ」の実施。 ◇解説と提案 マインドセット(ドゥエック, 2006)の紹介を行い、磨けば磨くほど自分の能力は伸びると考える「しなやかマインドセット」の重要性を解説する。次に、上田信行『プレイフル・シンキング[決定版]働く人と場を楽しくする思考法』(2020)を紹介し、ストローチャレンジの中にも見出された、プレイフル・ラーニング「楽しさの中に学びが溢れている」という考え方を提案する。	◇ワークショップ「ストローチャレンジ」 4名程度の小グループを作成し、参加者各人が3本程度のストローのみで自立させることができるかに挑戦する。参加者の工夫をスマホを使い、ホールの大画面に投影し紹介する。参加者のインタビューを行いサポート学生がジェネレーター(盛り立て役)となり会場を活性化させる。 次に、グループで協力しストローのみで、どんなコトやモノがつかれるかに挑戦する。活動成果を上映し、グループでの活動が活性化するように講演者、サポート学生が協力しホール全体をライブ会場のように盛り上げる。
◇グループワーク 「共に考えるを楽しもう」の実施。 ◇解説と提案 デザイン思考の解説。「ブリコラージュ」(身近なものを組み合わせ有用なものに変える知恵)、「ティンカリング」(モノや道具をいじくりまわし創造的に思考する術)に関して解説する。最後に「可能性は状況の中にある。How can we do it」を来場者に提案する。	◇グループワーク「共に考えるを楽しもう」 参加者それぞれが、今、自分たちが働く場で“気になること”を、キーワードにし付箋に書く。そしてグループ全員で思いや気づきを共有し、A3用紙に本講座に参加した全員に向けてメッセージを記入する。 本講座の活動記録を編集したショートムービーを作成し講座の最後に大画面にて上映する。参加者それぞれの思いを共有する時間を創出する。

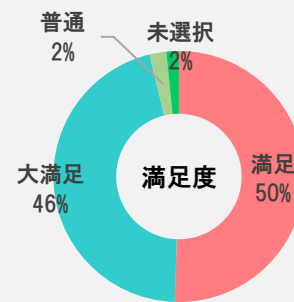
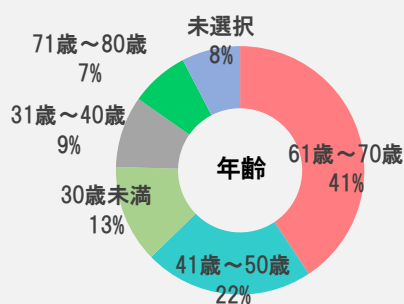
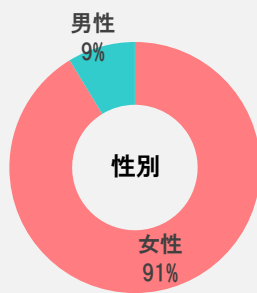


講話(プレイフル・ラーニングの解説)



グループワーク「共に考えるを楽しもう」

■受講者データ n=83



受講者の声

- ・ ストローチャレンジ、童心に戻って工夫しながら組み立てるのはとても難しかったけど、時間を忘れて取り組むことが出来ました。子どもたちならどんなものを作るんだろうと思いながらワクワクしました。
- ・ 今までの研修とは全く違った研修内容でした。楽しいことの中に学びがあふれていて、大人も子どもも関係なく楽しむことが大切だと思います。
- ・ グループワークで人が関わり、ひとつの目標を持つことによって新たな発想が生まれることを知りました。大学の講義に参加させていただけたような楽しい研修でした。
- ・ コロナで人と触れ合うことが難しい中、周りの方と触れ合い、たくさんの方の遊びを見ることができ、本当に時間を忘れて楽しむことが出来ました。

担当教員の感想

コロナ禍において対面で開催された本講座は、注意すべき点が多々ありましたが、開催できて本当によかったです。来場した皆さんの学びに対する意識の高さ、語り合い学び合うとする強い思いが会場にみなぎり、会場全体が一体となる高揚感を感じ取ることができました。放課後児童クラブで日々奮闘されている皆さんが、安全安心の視点のみではなく、常に児童が元気に学び過ごせる場所を作ろうとしている姿勢に強く心動かされました。大学が、地域で活躍する皆さんに貢献できる「知」を常に磨き続け、準備蓄積することの重要性を学ぶことができました。

第2章 令和4年度の地域連携事業

IV. 折尾二三会との包括的連携事業

本学と折尾二三会*は、令和元年度に人間生活学科のカリキュラムにおいて、子ども職業体験イベント「おりちょこランド」の企画運営に共同で取り組んだ(令和元年10月22日開催)。本事業を通じて、学生と社会人が接することで、学生の社会人理解へ繋がったとともに、イベント企画の立案、段取りや進行等を実践的に経験し、社会人基礎力の養成へ繋がった。また、折尾二三会は様々な業種の企業で構成されていることから、学生は実践的に業界研究の視点や考えを深める機会となった。この事業実績を踏まえ、大学と企業が産学連携することで、折尾地区の活性化、学生の社会人基礎力の養成、および地元企業への理解促進を図るため、令和2年8月3日に本学と折尾二三会で包括的連携協定を締結した。

令和4年度は、大学の敷地内で地元の子どもたちを対象としたイベントの企画運営に取り組んだ。

※折尾二三会とは、1984年に誕生し、折尾地区を中心とした若手経営者による異業種交流団体である。

1. 九女わくわくパークの企画運営

(1) 概要・関連SDGs

人間生活学科の3年生を対象に開講している「地域生活学演習Ⅱ」および、人間発達学科人間基礎学専攻3年生の創造的な研究テーマを構想し確定することを目指した「卒業研究演習Ⅱ」において、学科を超えた合同授業を行い、地元の子どもたちを対象とした「九女わくわくパーク」を企画のうえ開催し、近隣の小学校の児童等55名が参加した(令和4年11月27日開催)。九女わくわくパークの内容は、クリスマスに関連した遊びで構成し、学生が話し合いを重ね、企画を立案・運営した。



(2) 実施内容

①学習

合同授業において、近隣地域と連携したまちづくりについての経緯を説明し、わくわくパークの趣旨を学習した。また、自分の学習スタイルを診断し、診断結果を基にグループ分けを行った。

②発想・企画

授業において、地域の子どもたちに学びと遊びの場を提供することを目的に、未就学児から小学生までゲームやもののづくり体験ができるイベントを企画した。イベントのテーマはもっとも意見が多かったクリスマスとし、企画内容については、個人で考えた企画内容を各チームごとにKJ法を用いて整理し、ブース企画案として発表した。



③実践(九女わくわくパークの開催)

「九女わくわくパーク」は、クリスマスマーケットをテーマとしたブースを4ブース展開した。また、コロナ禍における開催となるため、参加人数を制限し、本学と連携している小学校を中心に呼びかけた。当日は、55名の子どもたちが参加し、保護者と楽しんでゲームに参加する姿や、集中して黙々と製作する姿が見られた。

テーマ
ちょっぴり早いクリスマスマーケット！九女わくわくパーク
実施内容
【ちょっとはい！？雪合戦】冬といたら雪合戦！みんなで雪合戦をしよう！
【クリスマスリースづくり】自分だけのオリジナルリースを作ってクリスマスを彩ろう！
【サンタさんからのプレゼント探し！】隠された手紙をたどってクリスマスプレゼントをゲットしよう！
【オリジナルスノードーム作り】好きなものを詰め込んで、世界で一つだけのスノードームを作ろう！

各ブースの様子



ちょっとはやり！？雪合戦



クリスマスリースづくり

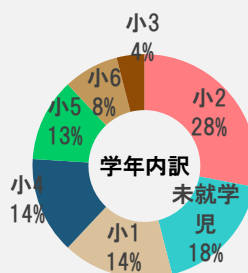
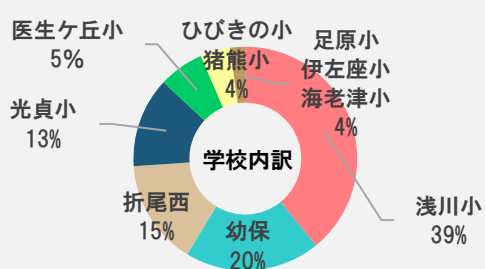


オリジナルスノードーム作り



サンタさんからのプレゼント探し！

■参加者データ(n=30)



④発表・評価・振り返り

イベント当日には、折尾二三会も来場し、準備や運営についてのアドバイス、イベント全体のフィードバックを行った。イベント後の反省会では、初回授業で行ったアンケートをもう一度行い自らの行動を、評価指標をもとに振り返った。



(3) 成果

本事業を通じて、活動スタート時とイベント終了時に行ったアンケート調査から、「相手の立場や気持ちを考えて話している」「他の人の意見やアドバイスをすすんで受け入れる」「人と約束したことは必ず守っている」など他人との行動に関する項目の向上が見られた。また、イベント準備が進むにつれ、対象の年齢に合った企画・対応する力や他団体と協力する姿勢が目に見えて向上した。学生はイベントを通して、学んだ知識を社会に還元する力や他者と協働する力を養うことができた。

第2章 令和4年度の地域連携事業

V. 不二製油株式会社との包括的連携事業

不二製油株式会社では、地域の方の体づくりや健康促進を目的に大豆を使用した製品の開発等に取り組んでいる。大豆は、健康維持・増進に効果的であると考えられる研究が数多く発表され、大豆加工食品の日常的摂取を通して健康寿命を延ばそうという動きが、世界規模で見られている。

本学と不二製油株式会社は、教育、研究、メニュー開発に伴う技術振興、製品スペックのアドバイス、人材交流等の分野において協力のもと、地域の発展と人材の育成に寄与するため、令和2年4月1日に包括的連携協定を締結し、大豆加工食品の開発に取り組んでいる。

1. 大豆加工食品を活用した製品開発事業

(1) 概要・関連SDGs

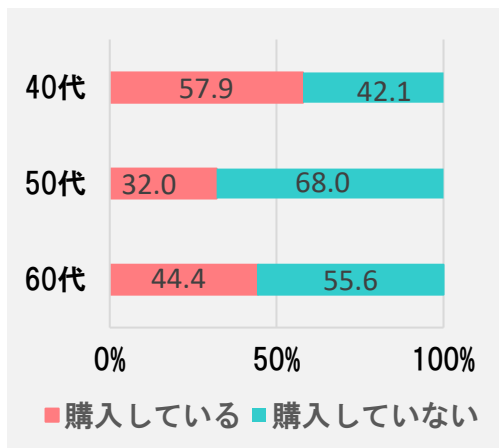
大豆製品を日常生活に簡単に取り入れることを目的に、手軽に美味しく栄養をチャージでき、水に溶けやすいソイプロテインにMCTを付加した「ぎゅっとたんぱくP×M」の共同開発を行った。本事業では、ターゲット層のニーズを把握するための市場調査としてアンケート調査を行った。



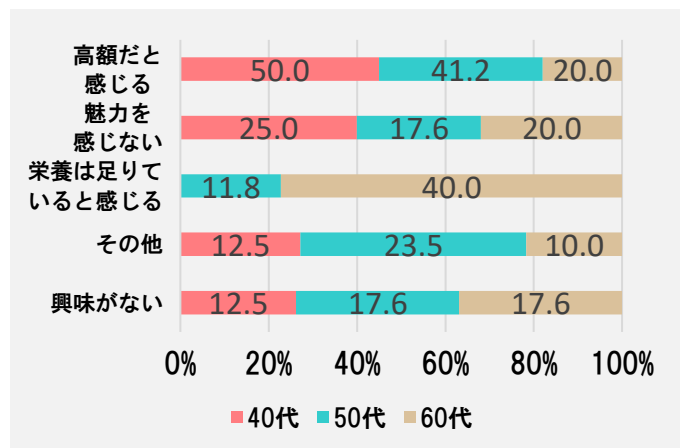
(2) 実施内容

① アンケート調査の実施

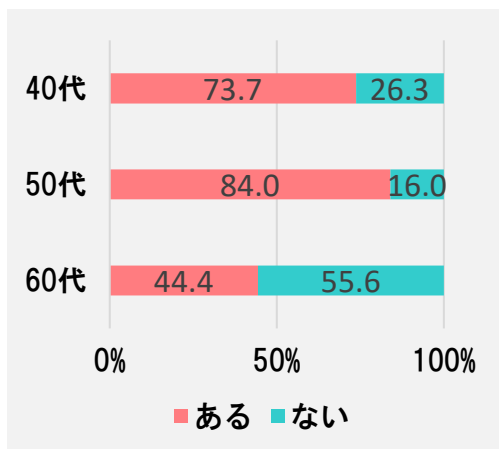
サプリメントの購入状況と栄養素摂取量およびストレスの要因に関する各年代の特徴をつかみ、販売促進に繋げることを目的として、九州女子大学、九州共立大学、自由ヶ丘高等学校に勤務する40代～60代の女性教職員62名を対象に、サプリメント購入、健康意識、ストレスに関する22項目についてアンケート調査を行った。また、栄養問診票システム（㈱コアソリューションズ）を使用して「生活・食生活調査」を行い、栄養摂取量を算出した。



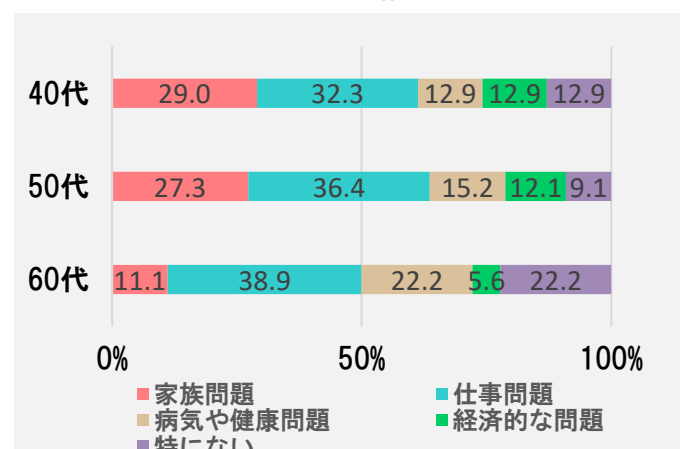
サプリメントを購入しているか



サプリメント未購入の理由



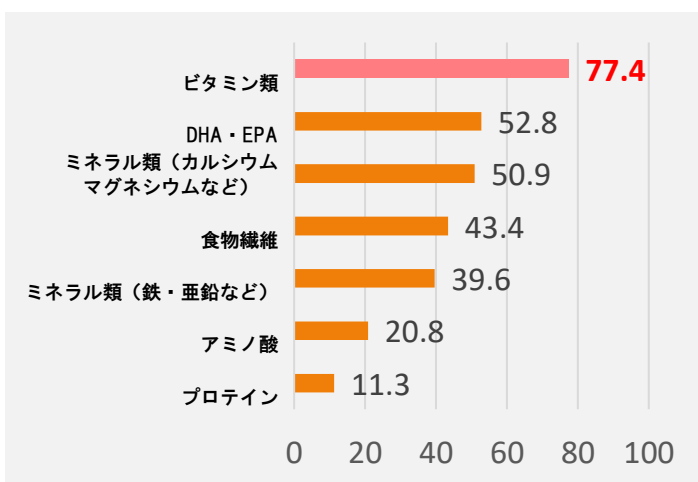
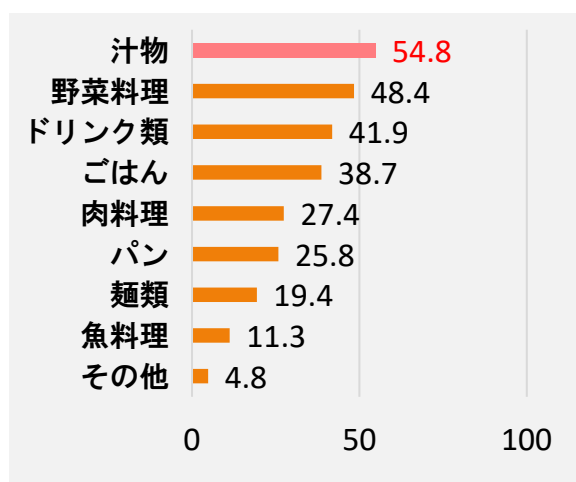
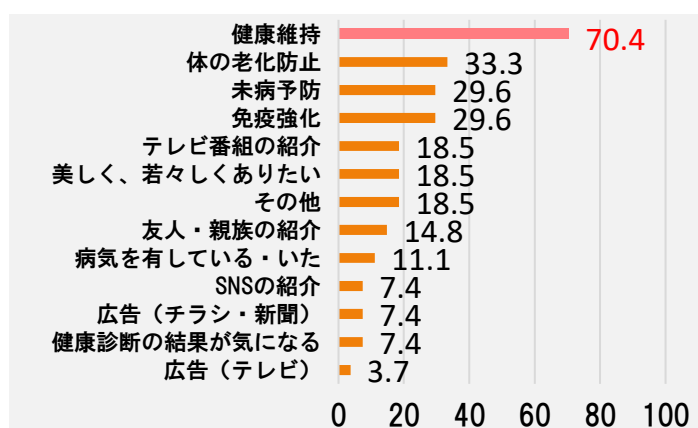
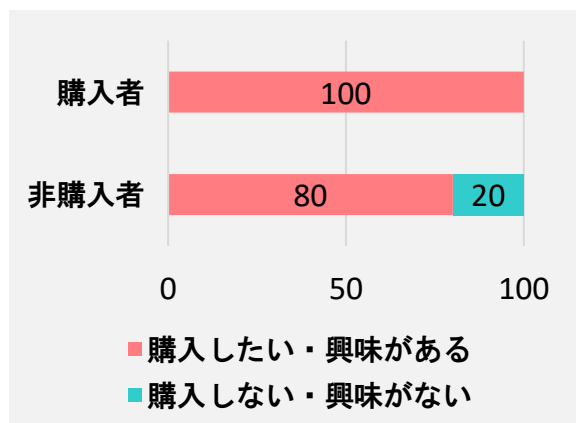
不安や悩み、ストレスの有無



ストレスの要因

②アンケート調査の再実施

前回のアンケート結果から「ぎゅっとたんぱくP×M」の主なターゲット層は食事の偏りやストレスの多い40・50代と考えられた。しかし、夫婦・子育て世帯が多いため、栄養の偏りを自覚しながらも価格の面からサプリメント購入に至らない人が多いと考えられる。サプリメントの有効性を明確に説明し、商品価値を理解してもらう必要があるため、どのようなサプリメントを求めているのかを知るために、サプリメントの購入理由や摂取したい栄養素およびどのような料理に足したいか等について検討を行った。



調査の結果、サプリメント購入のきっかけは、「健康維持」が最も多く、汁物に溶かしてビタミン類も摂取できる商品が求められていることがわかった。そのため、今回の新製品はビタミンも付加され汁物に溶けやすい特徴を伝えることで購入に繋がるのではないかと考えられた。これらの結果から、「ぎゅっとたんぱくP×M」は、1つの製品で大豆たんぱく質に即効性エネルギーとなるMCT、ビタミン、ミネラルを同時に汁物等に溶かして簡単に摂取できることから、ターゲット層の女性が期待する効果、希望する摂取方法に合致した商品であることが明確になった。テレビ、インターネットでこれらの情報を発信することで商品の有用性を理解してもらい、購入に繋がるのではないかと示唆された。

(3) 成果発表

令和4年12月26日、本事業について学生が卒業研究として発表した。発表内容は、「ソイプロテイン粉末飲料開発のためのアンケート調査1報—40～60歳代女性のサプリメント購入状況と栄養素摂取量、ストレスの要因—」「ソイプロテイン粉末飲料開発のためのアンケート調査2報—40歳代～60歳代女性のサプリメント購入のきっかけ、商品の情報源—」という題目で、ソイプロテイン開発を行い、ターゲット層のニーズを把握するために行ったアンケート調査の結果を発表した。不二製油株式会社との連携事業を学生の卒業研究へ還元することができ、地域教育実践研究センターの基本方針である「学生の質保証の強化」へ繋げることができた。

第2章 令和4年度の地域連携事業

VI. 株式会社えん・コミュニケーションズとの包括的連携事業

株式会社えん・コミュニケーションズは、北九州市に位置する水産食料品製造会社であり、明太子、たらこの製造を中心として、しめ鯖、寿司ネタ、総菜等を製造している。株式会社えん・コミュニケーションズから、本学に対して新製品の共同開発について依頼があった。このことから、本学と株式会社えん・コミュニケーションズは、教育、研究、商品開発に伴う技術振興、人材交流等の分野において協力のもと地域の発展と人材の育成に寄与するため、令和2年8月3日に包括的連携協定を締結し、新製品の開発に取り組んだ。

1. 鯖および明太子を活用した製品開発事業

(1) 概要・関連SDGs

株式会社えん・コミュニケーションズでは、鯖1尾あたり、頭部、尾、内臓、中骨等、約50%が廃棄され、月間約30tが廃棄量となっている。このことから、栄養学科の学生が、同社の主力商品である鯖と明太子を活用した食品ロス軽減に繋がる一般消費者向けの新製品を考案するため、計8品のレシピを開発した。



(2) 実施内容

①コンセプトの設定

新製品を考案するにあたり、以下のとおりコンセプトを設定した。

- ・SDGsに繋がる食品ロス削減のために廃棄する部分を使用する
- ・美味しい・健康的であること
- ・工場で実行可能な製造過程であること
- ・魚が嫌いな方にも食べていただけること

②レシピ開発

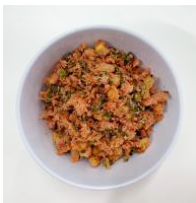
鯖フィレを使用したレシピを6品、明太バラ子を使用したレシピを2品開発した。

鯖フィレ	鯖のトマト煮、鯖の香草パン粉焼き、さばスティック、サバ餃子、ゴマサバキューブ、鯖のしっぽふりかけ
明太バラ子	豆乳明太クリームソース、明太子パウダー

③試食会の実施

令和4年11月10日、学生が開発したレシピの試作品について株式会社えん・コミュニケーションズの社員が試食を行った。



明太バラ子レシピ		コメント
豆乳明太 クリームソース		・コストの高いガム子・バラ子の使用率が多い。 ・明太子感を残しつつ、いかに使用率を下げられるかが課題。 ・ソースとしての汎用性が高い。
明太子パウダー		・コストの高いバラ子の使用率が多いため味の素や昆布だしを使ってうまみの強化を図る。 ・イカを使っているところが良い。

鯖フィレレシピ		コメント
鯖のトマト煮		・臭みが鯖の良さでもあるため、鯖の臭みを少し残したほうが良い。 ・トマト缶、トマトペーストの原価が高い ・鯖嫌いの人でも食べられそうである。
鯖の香草パン粉焼き		・調理方法の工夫が良い。焼く前に油をスプレーすることでサクサク感が増す。 ・昆布系のうま味を入れると味がまとまる。 ・スチームコンベクションオーブンで揚げ物風に調理する専用の油で調理するともっとサクサクになる。
さばスティック		・焼き時間、温度が良い。 ・スナック感覚ならもう少し水分を飛ばす。 ・子どもにも大人にも向いている。
サバ餃子 (にんにく味・ピザ味)		・ミンチにせず鯖をブロック状で使っているのが良い(鯖を感じられる) ・韓国のりの風味を調味料(ごま油など)で鯖に味をつける。 ・ネーミングの候補。
ゴマサバキューブ		・販売形式は透明カップなどが良い。 ・給食に使える。 ・保存時の温度帯(常温保存可能の方が消費者に好評) ・「ゴマサバ」というネーミングを変えたほうが良い
鯖のしっぽふりかけ (青のり・山椒 ごま・カレー粉)		・明太子を感じないため入れなくても良い ・尻尾をパウダーにする機械がない ・子どもに好評 ・カルシウムがとれる ・味の種類がたくさんあって良い

(3) 成果発表

令和4年12月26日、本事業について学生が卒業研究として発表した。発表内容は、「株式会社えん・コミュニケーションズとの一般消費者向け商品の開発」という題目で、鯖および明太子の廃棄部分を用いたレシピ開発、改良点等を発表した。株式会社えん・コミュニケーションズとの連携事業を学生の卒業研究へ還元することができ、地域教育実践研究センターの基本方針である「学生の質保証の強化」へ繋げることができた。

第2章 令和4年度の地域連携事業

VII. インターンシップ推進事業

本学のインターンシップについては、文部科学省・厚生労働省・経済産業省が提言している「インターンシップ推進に当たっての基本的考え方」に則り、「学生が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと」として、地元企業を中心としたインターンシップ推進事業に積極的に取り組むことで、学生のインターンシップへの参加を促進している。

令和4年度は、学生に対して新型コロナウイルス感染防止対策の徹底を促したうえで、学生を派遣した。また、上述の「インターンシップ推進に当たっての基本的考え方」に関して、今般のインターンシップを取り巻く状況の変化等を踏まえ取りまとめられた留意点を考慮し、より教育効果の高いインターンシップの推進・普及を実施するため、令和3年度より大学2年生から正規の教育課程にインターンシップ科目を配置し、学生を派遣している。

1. インターンシップの種類

文系インターンシップ
北九州市内の学生に対して、職業意識の醸成や勉学意欲の向上、および市内企業への就職促進を図るため、市内の大学、短期大学、企業、北九州商工会議所が連携・協力し、文系学生を対象に就労体験の場を提供する事業である。
(一社)九州インターンシップ推進協議会 短期仕事理解型インターンシップ
九州全体を見据えたインターンシップの推進と次代を担う若手の人材を育成するため、九州経済産業局や地元経済界、主要大学による産学官が協力して実施する事業である。
山口県インターンシップ推進協議会インターンシップ
山口県の経済・社会の活性化に貢献するため、県内の高等教育機関等、事業所、経済団体、行政機関が相互に連携・協力し、企業等へのインターンシップを通じて、高い職業意識の育成を推進する事業である。
北九州市インターンシップ
職業意識の向上、人材育成、および市政に対する理解を深めるため、市と協定を締結した教育機関の学生を対象とした市役所の公務に関する職業体験事業である。

地域教育実践研究センター

地域教育実践研究センターでは、各インターンシップの夏季および春季の参加者を募集し、参加希望者の応募手続きを行っている。

文系インターンシップ

(一社)九州インターンシップ推進協議会
短期仕事理解型インターンシップ

山口県インターンシップ推進協議会
インターンシップ

北九州市インターンシップ

インターンシップを通じて学べること

- 業務内容や企業について深く知ることができる。
- 今後の業界・職種・企業選びやキャリアプラン設計の材料となる。
- 社会人としての意識、働くことへの意識が身につく。
- 実務の業務スキルが得られる。

2. インターンシップ参加スケジュール

インターンシップに参加する学生に対して、本学独自の事前研修を行い、社会で必要なスキルを事前に身につけたうえで企業へ派遣するフォロー体制を整えている。また、インターンシップ終了後は、インターンシップ時の評価をフィードバックし、その後の就職活動に繋げている。インターンシップ参加のスケジュールは、以下のとおりである。

(1) 夏季インターンシップ

5月

参加学生の募集開始

チラシ掲示による案内、キャリアデザイン科目等での説明
必要書類の提出

6月

企業と学生のマッチングによる受け入れ先決定

7月

学内事前研修

インターンシップの意義やマナーについて学内で研修

学外事前研修 ※(一社)九州インターンシップ推進協議会に限る
主催側によるインターンシップの意義、マナーについて他大学参加者と共に研修

8~9月

インターンシップ

9月

学外事後研修 ※(一社)九州インターンシップ推進協議会に限る
主催者側によるインターンシップの振り返り



(2) 春季インターンシップ

11月

参加学生の募集開始

チラシ掲示による案内、キャリアデザイン科目等での説明
必要書類の提出

12月

企業と学生のマッチングによる受け入れ先決定

1月

学内事前研修

インターンシップの意義やマナーについて学内で研修

学外事前研修 ※(一社)九州インターンシップ推進協議会に限る
主催側によるインターンシップの意義、マナーについて他大学参加者と共に研修

2~3月

インターンシップ

3月

学外事後研修 ※(一社)九州インターンシップ推進協議会に限る
主催者側によるインターンシップの振り返り



第2章 令和4年度の地域連携事業

3. 各インターンシップの実績

(1) 文系インターンシップ

①事業概要

参加大学・人数	【夏季】計:延べ176人 九州女子大学:19人 九州共立大学:27人 北九州市立大学:16人 九州国際大学:4人 西南女学院大学:38人 西日本工業大学:16人 折尾愛真短期大学:9人 梅光学院大学:3人 九州産業大学:13人 福岡工業大学:3人 福岡大学:1人 日本経済大学:7人 創価大学:1人 山陽小野田市立山口東京理科大学:1人 専門学校九州テクノカレッジ:15人 KCS北九州情報専門学校:4人
	【春季】計:延べ60人 九州女子大学:14人 九州共立大学:1人 西南女学院大学:7人 西日本工業大学:3人 折尾愛真短期大学:3人 下関市立大学:1人 梅光学院大学:5人 九州産業大学:6人 福岡工業大学:1人 KCS北九州情報専門学校:7人 日本文理大学:3人 西南学院大学:4人
企業数	参加企業数:夏季82社/春季63社 受入企業数:夏季55社/春季33社
実施期間	夏季:令和4年8月～9月 春季:令和5年2月～3月

②本学の実施状況

受け入れ先		日程	日数	人数
夏季	(株)ルネ	8/3～4	2日	1
	(株)北九州福祉サービス【オンライン】	①8/9 ②8/17	1日	2
	(一社)UBUNTU FSプロモーション	8/15～28	10日	1
	芳野ケアサポート(株)	8/16～20	5日	1
	ネットトヨタ北九州(株)	8/17	3日	2
	ジョウツ(株)	8/18～19	2日	1
	(株)アンサー倶楽部	①8/22～24 ②9/12～14	3日	2
	(医)かん養生クリニック	8/22～26	5日	1
	(株)三立鑑定【オンライン】	8/24～25	2日	1
	(株)木輪	①8/31～9/2 ②9/7～9	3日	2
	(株)有菌製作所	9/5～9	5日	1
	(株)五常	①9/5～7 ②9/12～14	3日	2
	日本生命保険相互会社 北九州支社	9/8～9	2日	1
	九州スズキ販売(株)	10/19～20	2日	1
	(有)アイユーホーム	※新型コロナウイルス感染症の影響により中止		
	計測検査(株)	※体調不良による欠席		
	計(延べ人数)			19
春季	(株)ミクニ【オンライン】	①1/26 ②2/10	1日	2
	TG Japan(株)	2/14～16	3日	1
	池田興業(株)	2/15	1日	1
	(株)サンキュードラッグ	①2/16 ②2/18	1日	2
	計測検査(株)	2/16～17	2日	1
	(福)カトリック社会事業協会 聖小崎ホーム	2/15	1日	1
	北九州福祉サービス(株)	2/21	2日	1
	明治安田生命保険相互会社	2/22	1日	1
	北九州ダイハツ販売(株)	2/28	1日	1
	(株)ゆめマート北九州【オンライン】	3/13	1日	1
	(株)西日本シティ銀行北九州総本部	3/15	1日	2
	計(延べ人数)			14
	合計(延べ人数)			33

学生のコメント	・今回のインターンシップでは、実際に自分たちが企画したイベントにたくさんの参加者の方が参加してくださったので達成感を得ることができました。 ・今回のグループワークでは「話を回していたり、視野が広いと感じた」などと褒めていただけたため、自信に繋がりました。
受け入れ先のコメント	・グループメンバーを積極的に牽引し、息詰まっているときには声がけを行うなど、どのような状況でも前向きな姿勢で取り組まれていた点が非常に素晴らしいと感じました。 ・今回のインターンシップでは唯一の2年生で、周りに3年生の参加学生しかいませんでしたが、学年の差を感じさせないしっかりとした立ち居振る舞いでした。

(2) (一社)九州インターンシップ推進協議会 通常型インターンシップ

①本学の実施状況

	受け入れ先	日程	日数	人数
夏季	福岡県庁	8/19～25	5日	1
合計				1

学生のコメント	今回のインターンシップでより一層県職員（教育行政）として県庁で働きたいと感じました。公務員になるためには試験を受けなければなりませんが、「県庁で働く！」ということを目指して受験勉強を頑張ります。
受け入れ先のコメント	積極的に課題意識をもって、自分の将来の姿を想像しながら参加できていたと思います。はじめから行政、社会教育の仕事をしたいという強い志があり、深めたい分野について質問や資料の読み込みなどもしっかりできていました。

(4) 山口県インターンシップ推進協議会インターンシップ

①本学の実施状況

※令和4年度の本学学生の参加者なし

(5) 北九州市インターンシップ

①本学の実施状況

	受け入れ先	日程	日数	人数
	子ども家庭局	8/1～5	5日	1
	北九州市芸術文化振興財団	8/25～28	4日	1
合計				2

学生のコメント	・実際の業務を体験させていただき、私自身も大学のグループでイベントの企画・運営をしているので、とても参考になりました。 ・インターンシップを通して自分の苦手分野を見つけることができました。残りの学生生活でどのように克服するか考え、行動し、就職活動に繋げていきたいです。
---------	---

第2章 令和4年度の地域連携事業

Ⅷ. 学生ボランティア事業

本学は、幼児教育者や学校教員等を目指す学生に現場経験を積ませるため、「グリーンティーチャー」等として、幼稚園・保育所、小学校、特別支援学校等に数多くの学生を派遣している。また、ボランティアとして、病院施設、図書館等にも学生を派遣している。

【ボランティア事業の種類】

九州女子大学	グリーンティーチャー
	取得免許毎の学生の実践力向上を図る事業について、「グリーンティーチャー」と命名している。グリーンとは、「緑の、未熟な、未経験の、元気のいい、若々しい、新鮮な」という意味を含んでいる。教育現場等において、園児や児童の指導補助・学習支援等を通して、学生の実践力を身につける本学独自の取り組み。
	病院・施設ボランティア
九州女子短期大学	病院(病児保育)・施設(療育施設)において、多様な保育環境に対応できる保育者を育成する取り組み。
	図書館ボランティア
	図書館において、図書館司書資格に必要な知識と技術を実務経験を通して身につけ、現場で図書館司書の役割等を理解する取り組み。
九州女子短期大学	幼稚園・保育所・施設ボランティア
	幼稚園・保育所・施設の行事等の多様な活動において、役割や仕事を実践・思考することで、職業人として必要な力を育成する取り組み。
	キャラバン隊
九州女子短期大学	九州女子短期大学の実践型教育として、幼稚園・保育所・施設・学校等に出向き、模擬保育や模擬授業を展開する取り組み。

Ⅸ. その他の地域連携諸事業

1. 北九州市民カレッジにおける公開講座

北九州市民カレッジは、北九州市(生涯学習総合センター)が主催で、市民に対して多様な学習ニーズに対応した生涯学習機会を提供し、人材育成を図ることを目的に運営している講座群である。令和4年度は、各大学等の特徴を活かした高度で専門的な学習分野「高等教育機関提携コース」において人間科学部系教員による全5回の講座を本学を会場に開講した。また、「デジタル化の抱える課題と私たちの未来」をテーマとした全6回の大学連携リレー講座において、人間発達学科人間基礎学専攻の関洋輔准教授を派遣した。

コース名	高等教育機関提携コース
講座名	文化を旅する午後
内容	①「くまのプーさん」原作と映画の比較 ②漢字のはなし ③ユゴーの「レ・ミゼラブル」をめぐる ④中国の食文化—中華料理のメニューを事例に— ⑤江戸の怪談
担当教員	①人間科学部人間発達学科 吉村圭准教授 ②人間科学部人間発達学科 古木誠彦准教授 ③非常勤講師 山下高之名誉教授 ④非常勤講師 方如偉名誉教授 ⑤人間科学部人間発達学科 樫澤葉子准教授
実施場所	九州女子大学 弘明館
受講者数	延べ33人



IX. その他の地域連携諸事業

1. 北九州市民カレッジにおける公開講座

受講者の声

- ・ 「くまのプーさん」の原作の時代背景がわかりやすく英文学を学ぶきっかけになりました。
- ・ 初心者にもわかりやすく、また身近な漢字を題材に教えていただいたので興味が深まりました。
- ・ とてもわかりやすく時代背景とあわせてレ・ミゼラブルについての興味深い話が聞けました。
- ・ 中国料理の全体像がわかって良かったです。もっと楽しみながら注文ができるようになります。
- ・ とても文学的な話に大学の講義感を持ちました。もっと深く聞いてみたいと思いました。

コース名	大学連携リレー講座
講座名	デジタル化の抱える課題と私たちの未来
担当教員	人間科学部人間発達学科 関洋輔准教授
実施場所	北九州市立生涯学習総合センター
受講者数	22人



2. ギラヴァンツ北九州との連携事業

本学園とプレミアムパートナーシップを締結した、北九州を拠点に活動するJ2リーグのプロサッカーチーム「ギラヴァンツ北九州」とそのフレンドリータウン協定先である豊前市の取り組みとして、有害鳥獣であるイノシシやシカによる農作物の被害を課題としている豊前市から、駆除されたイノシシ等を有効活用した新名物を作り、地域活性化に役立てることを目的とした商品開発の依頼を栄養学科が受け、ジビエカレーのレシピを考案した。

また、北九州市および本学園、ギラヴァンツ北九州主催の「SDGsサッカークリニック（小学生の部）」および「SDGsサッカークリニック（中学生の部）」を開催し、栄養学科教員による栄養セミナーを行い、SDGsの取り組みの一つとして普段捨てている人参や大根の皮を使用したレシピを考案し、試食会を行った。

さらに子ども健康学科専攻科の学生が「ギラヴァンツ北九州」のホームゲームで、サポーターが子ども連れでもゆっくり観戦できるための空間を提供するため、託児所を開設している。

3. 宗像市との連携事業

宗像市との連携事業として、地島の特産品である椿油およびわかめ等を使用したレシピの開発を栄養学科が行った。レシピ開発については次年度も継続して行うこととなった。

また、人間生活学科が地島わかめの新パッケージの作成を行った。学生が考案したデザインを宗像漁協地島支所および地島地区漁師で意見交換を行い、製品化することとなった。

第3章 学外実習・介護等体験等

I. 令和4年度 学外実習・介護等体験の実績

教育実習	保育実習	臨地実習	介護等体験	臨床実習
・教員免許状の取得に際して、各学校における観察・参加・実習という教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに、課題を自覚する機会とすべく実習を行うもの。	・保育士資格取得に際して、保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解し、観察や子どもとの関わりを通して、子どもへの理解を深めるために保育所、児童福祉施設等において実習を行うもの。	・管理栄養士免許取得に際して、実践活動の場での課題発見、解決を通して、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門的知識および技術の統合を図り、管理栄養士として具備すべき知識および技能を修得させることを目的として実習を行うもの。	・小学校又は中学校の教員免許状を取得しようとする者を対象に、教員が個人の尊厳および社会連帯の理念に関する認識を深めることの重要性に鑑み、教員の資質向上および学校教育の一層の充実を図る観点から、特別支援学校2日間、社会福祉施設5日間の体験を行うもの。	・大学で学んだ知識・技術をもとに、医療・介護・福祉の現場における活動の見学や援助を通して、養護教諭としての必要なケアの視点や能力を養う。また、実習体験を通して個人を尊重した対象者とのかかわりの基本と健康や健康障害、発達段階や発達課題に対する支援能力を養うために実習を行うもの。

【九州女子大学】

(人数)

実習名	学科・専攻名	学校種別等	1年	2年	3年	4年
教育実習	人間生活学科	中学校 高等学校				14
	栄養学科	小学校				3
	人間発達学科 人間発達学専攻	幼稚園				56
		小学校				9
		特別支援学校				48
	人間発達学科 人間基礎学専攻	中学校 高等学校				21
保育実習	人間発達学科 人間発達学専攻	保育所		45	81	6
		児童養護施設等				70
臨地実習	栄養学科	福祉施設・ 保健所				82
		小学校				79
		病院				77
介護等体験	人間生活学科	特別支援学校 社会福祉施設			0	0
	人間発達学科 人間発達学専攻			0	0	0
	人間発達学科 人間基礎学専攻				0	

【九州女子短期大学】

(人数)

実習名	学科・課程名	学校種別等	1年	2年
教育実習	子ども健康学科 幼稚園教諭養成課程	幼稚園		66
	子ども健康学科 養護教諭養成課程	小学校・中学校 高等学校		55
	専攻科 子ども健康学専攻	小学校・中学校 高等学校		22
保育実習	子ども健康学科	保育所	101	118
		児童養護施設等	99	51
臨床実習	子ども健康学科 養護教諭養成課程	病院・福祉施設	25	66

参考資料

I. 地域教育実践研究センターの各種委員会構成員

地域教育実践研究センター運営委員会			地域教育実践研究センター外部評価委員会		
大島 まな	地域教育実践研究センター 所長 人間科学部人間発達学科 教授		大島 まな	学内委員 地域教育実践研究センター 所長	
西田真紀子	地域教育実践研究センター 副所長 家政学部人間生活学科 教授		西田真紀子	学内委員 地域教育実践研究センター 副所長	
濱寄 朋子	教務部長 家政学部栄養学科 教授		矢野 健太	学外委員 芦屋町 地方創生推進課 企画係 係長	
田中由美子	家政学部人間生活学科 教授		田中 尚哉	学外委員 水巻町役場 総務課庶務係 主事	
巴 美樹	家政学部栄養学科 教授		實松 秀男	学外委員 北九州商工会議所 産業振興部 部長	
谷口 幹也	人間科学部人間発達学科 教授		成重 純一	学外委員 北九州市立高須小学校 校長	
古木 誠彦	人間科学部人間発達学科 准教授		大塚 友江	学外委員 北九州市小倉社会事業協会 評議員	
安東 綾子	子ども健康学科 講師		安藤 進一	学外委員 協同組合折尾商連 理事	
田中 邦博	事務局長		巴 美樹	学内委員 家政学部人間栄養学科 教授	
秋丸 風花	地域教育実践研究センター 主事補		谷口 幹也	学内委員 人間科学部人間発達学科 教授	
			安東 綾子	学内委員 子ども健康学科 講師	
			田中 邦博	事務局長	

II. 地域教育実践研究センターの運営委員会等年間実績

月	学内委員会等		外部との会議等	
4月			28日	水巻町との連携会議 折尾二三会との連携会議
5月			18日 20日	芦屋町との連携会議 北九州市との連携会議
6月				
7月	14日	第1回地域教育実践研究センター運営委員会		
8月				
9月	14日 29日	第2回地域教育実践研究センター運営委員会 第1回地域教育実践研究センター外部評価委員会		
10月				
11月	24日	第3回地域教育実践研究センター運営委員会		
12月				
1月	12日	地域教育実践研究センター臨時運営委員会		
2月				
3月	16日 24日	第2回地域教育実践研究センター外部評価委員会 第4回地域教育実践研究センター運営委員会		

Ⅲ. 地域教育実践研究センター外部評価委員会報告

令和4年度は、第1回地域教育実践研究センター外部評価委員会を令和4年9月29日に開催し、令和3年度の連携事業の実績を報告し、令和4年度の連携事業の進捗を共有・確認した。また、第2回地域教育実践研究センター外部評価委員会を令和5年3月16日に開催し、令和4年度の連携事業の実績を報告し、令和5年度の連携事業計画を共有・確認した。

学外委員	意見	
芦屋町	第1回委員会 (R4. 9. 29開催)	地域交流サロンは中止が続いていたため今年度は特に講座を希望するサロンの申込が多かった。芦屋町だけが得をするのではなく、学生にもやってよかったと思ってもらえるような連携事業を行いたいので、何か要望があればいつでも声をかけてほしい。
	第2回委員会 (R5. 3. 16開催)	地域からの要望に応じて大学教員の講座を開講してもらえて本当にありがたい。地域交流サロンおよび祖父母学級は大変評判が良く、来年度も実施してほしいという感想が多く届いている。キャラバン隊については現在進行中だが、教育教材に対する園からの反応を楽しみに待っている。
水巻町	第1回委員会 (R4. 9. 29開催)	学生が作成した避難所レイアウトを本来であれば昨年度の防災イベントで町民にお披露目したかったがコロナの影響でできなかった。今年度については地区や小学校等で行っている防災についての出前講座を学生と一緒にできないか模索している。コロナの影響により出前講座の依頼が少ないが、ぜひ協力をお願いしたい。
	第2回委員会 (R5. 3. 16開催)	コロナの影響で防災教室の要望が減少しているが今年度は2回実施できた。学生が防災教室に参加することは町民にとっても新鮮であり、外部の人が来ているという緊張感が場が引き締まるため、来年度も引き続き協力してほしい。
北九州商工会議所	第1回委員会 (R4. 9. 29開催)	コロナの影響でインターンシップの参加企業数、学生数は減っていたが参加数も復活しつつある。地場企業は採用意欲がとても高いが、学生が合同説明会等になかなか集まらないのが課題である。インターンシップや説明会だけではなく、地場企業の経営者を講師として授業に派遣することもできるためぜひ声をかけてほしい。
	第2回委員会 (R5. 3. 16開催)	コロナ禍で減少していたインターンシップ参加者が徐々に戻りつつある。現在はものづくり系の企業を一日で2,3社回るバスツアーの企画をしており、地元企業の就職により力を入れていく。近年ではものづくり系の企業に就職する男女比も6:4と差がなくなってきたためぜひ気軽に参加してほしい。
北九州市立小学校	第1回委員会 (R4. 9. 29開催)	九州女子大学からの新卒採用の2名と教育実習生1名に共通しているのは素直なところである。授業や号令など実践的な部分は現場で教育することもできるため、引き続き素直な学生を育ててほしい。
	第2回委員会 (R5. 3. 16開催)	新卒2名および教育実習生1名が現在も頑張っている。休み時間は児童と外で遊び、業務についても積極的に取り組んでおり、いつもいい学生を育てていただいて感謝している。子どもへの愛情が大切であるため引き続き素直な学生に育てていただきたい。
北九州市 小倉社会事業協会	第1回委員会 (R4. 9. 29開催)	3年前から就職試験に人が集まらないという問題があり、保育士不足が現場でも恒常的に起こっている。現在はペープサートなどの教材を作って実演しているところをビデオに収めて、園で流すという活動も行っている。見ている子どもたちの様子もビデオに収めて教材のフィードバックとして使ってほしい。
	第2回委員会 (R5. 3. 16開催)	保育士の若年層の離職率が問題になっている。原因は保護者対応の難しさやプレッシャー、人間関係の面が大きく、保育者一人に対応させない環境を整えていきたい。1年目のみではなく3年目まで周りがしっかりフォローできるようにしていく。
協同組合折尾商連	第1回委員会 (R4. 9. 29開催)	今後の課題として「折尾からの情報発信」に力を入れていきたいと考えている。折尾まつり等のイベントを通して引き続き学生と協力して折尾の活性化について考えていきたい。
	第2回委員会 (R5. 3. 16開催)	町づくりおよび人との繋がりを持つことを目的とした「鬼ヶ島in ORIO」は学生主体で企画運営を行い、学生も折尾商連も手ごたえがかなりあった。来年度は折尾まつりも復活し、様々なイベントを行う予定であり、九州女子大学からは学祭実行委員の学生が参加することになっている。これからも連携に期待している。

Ⅳ. 協定先一覧

本学は以下のとおり、自治体、企業、大学、および団体等と協定を締結している。これらの協定に基づき、外部組織と様々な連携事業に取り組んでいる。

協定先	協定名	締結日
北九州市	北九州市放課後児童クラブの振興に関する連携協定	平成25年9月1日
芦屋町	本学と芦屋町との包括的地域連携に関する協定	平成28年3月29日
北九州商工会議所	本学と北九州商工会議所との連携に関する協定	平成28年6月7日
水巻町	本学と水巻町との包括的地域連携に関する協定	平成31年4月17日
青森県立保健大学	青森県立保健大学と九州女子大学におけるベトナム国ナムディン看護大学及び国立栄養研究所との交流活動に係る連携・協力に関する協定	令和元年7月31日
味の素株式会社九州支社	本学と味の素株式会社の包括的連携に関する協定	令和2年3月3日
不二製油株式会社	本学と不二製油株式会社の包括的連携に関する協定	令和2年4月1日
株式会社えん・コミュニケーションズ	本学と株式会社えん・コミュニケーションズの包括的連携に関する協定	令和2年8月3日
折尾二三会	本学と折尾二三会の包括的連携に関する協定	令和2年8月3日

Ⅴ. 講師派遣実績一覧

No.	所属	派遣者	派遣内容	派遣日	依頼組織
1	子ども健康学科	菊地由紀子	子育て応援サロン	隔月1回、第2土曜日	社会福祉法人 粕屋町社会福祉協議会
2	家政学部 人間生活学科	佐久間 治	北九州市立年長者研修大学校穴戸学舎研修	R4. 7. 6、R4. 8. 5、 R4. 8. 24、R4. 8. 31、 R5. 2. 7	九州市立年長者研修大学校穴生校舎
3	人間科学部 人間発達学科	今津 尚子	ESD推進いきいきシニア塾講演会	R4. 4. 30	ESD推進いきいきシニア塾
4	子ども健康学科	宮嶋 晴子	令和4年度城南区人権講座	R4. 8. 26	福岡市城南区生涯学習推進課
5	人間科学部 人間発達学科	今津 尚子	北九州市立年長者研修大学校穴戸学舎研修	R4. 4. 28	九州市立年長者研修大学校穴生校舎
6	人間科学部 人間発達学科	大島 まな	令和4年度家庭教育支援者養成研修会	R4. 6. 24	新潟県立生涯学習支援センター
7	人間科学部 人間発達学科	大島 まな	キャリア形成プログラム	R4. 6. 1～R5. 3. 31	北九州市立男女共同参画センター
8	人間科学部 人間発達学科	鳴海 正也	保育士等キャリアアップ研修eラーニング	R4. 5. 21、R4. 5. 22、 R4. 5. 23	一般財団法人保健福祉振興財団
9	子ども健康学科	宮嶋 晴子	広川町教育委員会主催オンライン研修	R4. 8. 12	広川町教育委員会 広川町中央公民館
10	人間科学部 人間発達学科	大島 まな	令和4年度朝倉市コミュニティ協議会事務局長研修会	R4. 8. 5	朝倉市教育委員会
11	子ども健康学科	松本 禎明	令和4年度福岡県保育士等キャリアアップ研修	R4. 8. 27、R4. 10. 2、 R4. 11. 12	一般財団法人保健福祉振興財団
12	人間科学部 人間発達学科	鳴海 正也	令和4年度福岡県保育士等キャリアアップ研修	R4. 9. 25、R4. 10. 1	一般財団法人保健福祉振興財団
13	人間科学部 人間発達学科	大島 まな	令和4年度家庭教育支援者養成講座	R4. 10. 22	群馬県生涯学習センター
14	家政学部 栄養学科	三浦公志郎	管理栄養士のための基礎医学講座	R4. 7. 16、R5. 2. 18	株式会社日本医療企画九州支社
15	人間科学部 人間発達学科	友納 艶花	令和4年度子育て支援員養成研修	R5. 2. 7	社会福祉法人北九州市福祉事業団北九州市社会福祉研究所

V. 講師派遣実績一覧

No.	所属	派遣者	派遣内容	派遣日	依頼組織
16	人間科学部 人間発達学科	大島 まな	令和4年度長崎県放課後児童支援員認定資格研修	R4. 11. 3、R4. 12. 4	長崎県学童保育連絡協議会
17	人間科学部 人間発達学科	矢崎 美香	令和4年度「目録システム書誌作成研修」	R4. 8. 18、R4. 9. 6、 R4. 11. 18	国立情報学研究所
18	人間科学部 人間発達学科	本多 辰之	令和4年度家庭教育学級	R4. 9. 2	宗像市
19	人間科学部 人間発達学科	鳴海 正也	令和4年度大阪府保育士等キャリアアップ研修	R5. 1. 28	一般社団法人保健福祉振興財団
20	子ども健康学科	宮嶋 晴子	令和4年度福岡教育事務所管内市町教育委員会教育委員当人権教育研修会	R4. 10. 3	福岡教育事務所
21	子ども健康学科	宮嶋 晴子	令和4年度家庭教区支援者リーダー等養成講座	R4. 10. 27、 R5. 1. 27、R5. 2. 28	佐賀県立生涯学習センター
22	家政学部 栄養学科	巴 美樹	令和4年度宮崎県栄養士会生涯学習研修会	R4. 10. 16、 R4. 10. 17	公益社団法人宮崎県栄養士会
23	人間科学部 人間発達学科	山口 勇弥	福岡県性暴力対策アドバイザー派遣事業	R4. 10. 27、 R4. 11. 17、 R4. 12. 6	福岡県
24	子ども健康学科	住田 実	愛媛県教育研究協議会栄養教員部研究大会	R4. 10. 20	愛媛県教育研究協議会
25	子ども健康学科	宮嶋 晴子	令和4年度後期「北九州市民カレッジ」	R4. 11. 21、 R4. 11. 28、 R5. 1. 30	北九州市立生涯学習総合センター
26	人間科学部 人間発達学科	大島 まな	令和4年度第2回市町村家庭教育支援担当者研修会	R5. 1. 20	宮崎県教育庁
27	人間科学部 人間発達学科	萬徳 紀之	第47回小倉北区青少年育成大会	R5. 1. 20	小倉北区青少年育成会協議会
28	家政学部 栄養学科	濱寄 朋子	令和4年度第2回歯科医療安全対策研修会	R5. 2. 11	北九州市保健所
29	人間科学部 人間発達学科	大島 まな	小倉北区自治総連合会町内会長研修会	R5. 1. 29	小倉北区環境衛生協会連合会
30	人間科学部 人間発達学科	山口 勇弥	少年鑑別所主催研修会	R5. 3. 1	小倉少年鑑別支所

VI. 行政の審議会等委員委嘱実績一覧

No.	所属	氏名	委嘱内容	就任期間	依頼組織
1	家政学部 人間生活学科	佐久間 治	北九州市景観審議委員	R3. 4. 1～R5. 3. 31	北九州市
2	家政学部 人間生活学科	田中由美子	北九州市消費生活審議委員	R5. 4. 1～R7. 3. 31	北九州市
3	家政学部 栄養学科	巴 美樹	芦屋町ブランド金賞選定審査会	R4. 4. 1～R6. 3. 31	芦屋町
4	人間科学部 人間発達学科	大島 まな	若松の未来をつくる検討会議（子育て・学び部会）委員	R4. 12. 12～R5. 2. 28	北九州市
5	人間科学部 人間発達学科	松本真理子	北九州市子ども・子育て会議委員	承認日～R5. 7. 15	北九州市
6	家政学部 栄養学科	塩田 由紀	北九州市学校給食調理等業務委託業者選定委員会委員	R4. 10. 1～選定終了	北九州市
7	人間科学部 人間発達学科	佐方はるみ	北九州市迷惑行為防止推進協議会委員	R4. 7. 1～R6. 6. 30	北九州市
8	人間科学部 人間発達学科	矢崎 美香	福岡市総合図書館運営審議委員会委員	R4. 7. 9～R6. 7. 8	福岡市
9	人間科学部 人間発達学科	堺 正之	福岡県豊かな心育成推進会議委員	R4. 6. 7～R5. 3. 31	福岡県
10	家政学部 栄養学科	濱寄 朋子	北九州市国民健康保険運営協議会委員	R4. 9. 1～R7. 8. 31	北九州市
11	人間科学部 人間発達学科	江口 恵子	福岡県中学校国語科研究会委員	H30. 3. 14～R3. 6	北九州市
12	人間科学部 人間発達学科	矢崎 美香	2022年度「目録システム書誌作成研修」企画ワーキンググループメンバー	R4. 4. 1～R5. 3. 31	国立情報学研究所
13	家政学部 栄養学科	濱寄 朋子	科学研究費委員会専門委員	R4. 6. 1～R4. 11. 30	独立行政法人 日本学術振興会
14	人間科学部 人間発達学科	黒田 耕司	水巻町子ども・子育て会議委員	R4. 4. 1～R6. 3. 31	水巻町
15	人間科学部 人間発達学科	友納 艶花	北九州市児童福祉施設等第三者評価委員会委員	R4. 4. 1～R6. 3. 31	北九州市
16	家政学部 栄養学科	濱寄 朋子	北九州市国民健康保険運営協議会委員	R1. 9. 1～R4. 8. 31	北九州市
17	人間科学部 人間発達学科	大島 まな	福岡県総合計画審議会委員	R1. 9～R4. 9	福岡県
18	家政学部 人間生活学科	田中由美子	広島県消費生活審議会委員	R3. 10. 16～R5. 10. 15	広島県
19	人間科学部 人間発達学科	大島 まな	ムーブ運営協議会委員	R3. 11. 1～R5. 10. 31	北九州市
20	人間科学部 人間発達学科	城 佳世	北九州市文化財保護審議会	R3. 11. 1～R5. 10. 31	北九州市
21	家政学部 栄養学科	巴 美樹	北九州市保健所運営協議会委員	R3. 7. 1～R5. 6. 30	北九州市
22	人間科学部 人間発達学科	大島 まな	第8期北九州市人権施策審議会委員	R3. 7～R5. 7（予定）	北九州市
23	人間科学部 人間発達学科	大島 まな	住民参画推進会議委員	H29. 8. 1～R6. 9. 29	芦屋町
24	人間科学部 人間発達学科	矢崎 美香	北九州市子ども読書活動推進会議委員	R3. 8. 1～R5. 7. 31	北九州市教育委員会

編集後記

本誌は、令和4年度に九州女子大学・九州女子短期大学、および地域教育実践研究センターで実施した地域連携事業を皆様にご報告するため、発行いたしました。

令和4年度は、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響により、計画していた事業の幾つかを中止せざるを得ませんでしたが、事業によっては、実施時期の見直し、規模の縮小、遠隔等で対応しつつ実施することができました。

特に、公開講座、製品開発等に関する取り組みについて自治体および企業等との連携活動を継続し、本学の教育・研究機能を活用した地域貢献に努めました。また、組織的に連携事業の客観性を担保しつつ、一層の改善に資するため、外部評価委員会を実施することで、外部の組織、地域の方々のご意見等を頂戴することで自己点検・評価活動へ繋げました。

本誌を契機として、皆様と新たな連携事業を実施できることを期待するとともに、本学の地域連携活動、および地域貢献活動のさらなる発展を目指してまいります。

地域教育実践研究センター 所長 大島 まな

令和4年度 地域連携事業報告書

発行：令和5年6月1日

編集：学校法人福原学園 九州女子大学・九州女子短期大学
地域教育実践研究センター

〒807-8586 北九州市八幡西区自由ヶ丘1-1

Tel：093-693-3134 Fax：093-603-6453

E-mail：chiiki-c@fains.jp

